

子どもの集い「つなぐ会」を開催しました！

令和7年8月1日(金)、小児がんのお子さんとそのご家族が小児病棟に集い、5名の方が音楽療法の体験、ストロングボックスづくりを行いました。

ストロングボックスとは…？

つらい気持ちを安全に「出す」「入れる」「しまっておく」箱。ストロングボックスに気持ちを書いたり箱にしまうことで、気持ちの整理や大切な気持ちに気づけるというメリットがあります。

作ってみよう！～ストロングボックスの作り方～

- ①箱に、「好きなもの」や「わくわくすること」を書きましょう。
イラストを描いたりシールを貼ってもOK！
- ②紙に、「つらいこと」や「気がかりなこと」を書きましょう。その紙を、そっと箱に入れましょう。
- ③中に入れた紙は、そのままにしたり、見直したりしてみましょう。不要になれば手放してもOK！
- ④こころが揺れるとき、悲しいとき、つらいときに、「箱に書いた楽しいこと」を思い出してみてください。

好みの装飾をほどこして、思い思いに作られたストロングボックス…



「タオル帽子作成の会」を開催しました！

令和7年9月19日(金)、京都タオル帽子の会の講師の先生方をお招きし、がん相談支援センターでタオル帽子作りを行いました。みんなで楽しくおしゃべりしながら丁寧に縫い上げ、素敵なタオル帽子が完成しました！

参加者からの感想

- とても素敵な作品を作らせていただき大変うれしく思います。自分でまた作っていきます。ありがとうございます。
- 楽しく、素敵な帽子が出来うれしかったです。ありがとうございます。
- 楽しかったです。勉強にもなりました。



講師の先生方からのひとこと

- 今日は自分が使う自分のための帽子、御主人のために縫いたいと言われてこられた方と一緒にしゃべりしながら帽子を作りました。集中している時間、おしゃべりしている時間を感じながらあっという間に2時間が過ぎました。
- 本日は、3人の参加でした。お一人は出来上がった帽子にすごく感動されていました。もう一人は、ご主人のためにと帽子を縫われていて、大変喜んでくれました。心のこもった帽子が出来ました。よかったです。

令和8年度の開催は以下のとおりです。

第1回 令和8年9月25日(金) 13:30～16:00 第2回 令和9年3月26日(金) 13:30～16:00
申込：各回、開催1か月前より募集を開始します。詳細は、がん相談支援センターまでお尋ねください。

京都市立病院創立60周年を迎えてのごあいさつ



京都市立病院 院長
清水 恒広

京都市立病院は昭和40年(1965年)12月1日に現在の壬生の地に誕生しました。もともとこの地にあった当時の伝染病院である「市立京都病院」と、総合病院である「京都市中央市民病院」が統合されたもので、令和7年(2025年)は創立60周年にあたります。創立60周年を祝い、患者さんや市民の皆さん、そして職員にも楽しんでもらえればとの思いで、色々な催しを行いました。市内にある洋菓子店や和菓子店の出張販売、当院で治療を続ける小児患者さんへの洋菓子店からのサプライズプレゼント、南観音山祇園囃子の囃子方による院内コンサート、一度に6人の救急処置が可能な超大型救急車の展示と子どもさんによる消防訓練などと、とても盛りだくさんでした。みぶなの会にご参加いただいている皆さんも楽しんでいただけましたでしょうか？

さて、みぶなの会の活動をお支えています当院のがん相談支援センターは、当院創立60周年を迎える令和7年1月に、京都府内では初めて、「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定されました。これは、「がん診療連携拠点病院等の整備指針」にあるがん相談支援センターの要件を満たすだけでなく、信頼性が高く、確かながん関連情報を見極める力があり、その情報により患者さん、ご家族が主体的に意思決定できるよう支援するための取組みが継続できて初めて認定されます。これまで当センターが大切にしてきた、患者さん、ご家族に寄り添い共に考えていく相談支援が高く評価されたものと、職員一同誇りに思うとともに今後の活動を行っていく上での励みになっております。

そのような中、厚生労働省モデル支援事業および創立60周年記念イベントとして、令和7年11月3日に「みてみて！京都アピアランスケア展」を当センターが中心となり開催できました。がん治療に伴う外見(アピアランス)の変化をもつ患者さんの悩み・苦痛を軽減する「アピアランスケア」を広く知ってもらうための取組みです。ご自身もがんサバイバーである全国がん患者団体連合会理事のご講演、当院の医師、看護師等職員の講演、患者支援団体や各種アピアランスケアに関わる企業の展示など、内容は多彩で、200人ほどのご来場者があり盛況のうちにイベントは終わりました。

今後とも、みぶなの会の皆さまとともに、そのお声を広く発信しつつ様々な活動を通じて良質で心のこもったがん医療を続けてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和8年3月吉日

みぶなの会

自分らしくがんと向き合うために



- 2 みてみて！
京都アピアランスケア展開催報告
- 4 「みぶなの会」学習会を開催
- 5 投稿 みぶな広場
- 6 京都市立病院トピックス
京都市立病院創立60周年を迎えてのごあいさつ

みてみて! 京都アピアランスケア展開催報告



このたび、京都市立病院では、厚生労働省の「アピアランス支援モデル事業」の一環として、11月3日に患者さんやご家族を対象としたイベント「みてみて! 京都アピアランスケア展」を開催いたしました。

アピアランスケアとは、がんの治療によって変化した外見(アピアランス)にともなう悩みやつらさをやわらげるために、医療や美容、こころのサポートを組み合わせて行うケアのことです。

がんの治療を続けながら、日常生活や仕事、学校生活を送る中で、多くの方々が「外見(アピアランス)の変化」に直面します。髪が抜ける、肌が変色する、身体の一部が変わる—そうした見た目の変化は、単なる容姿の問題にとどまりません。「自分らしさ」が揺らぐような体験であり、誰にも言えず、周囲にはなかなか気づいてもらえない苦しさを伴うこともあります。

アピアランスケア展では、「食べる」「働く」「自分らしさ」「つながり」をテーマに、ブース展示を行い、同じ体験をした当事者の方や、アピアランスケアに携わる医療者・専門家との交流の場を設けました。また、各テーマの講演も行いました。

開催にあたって、数多くの患者支援団体、企業に協賛・出展の協力をいただき、来場者へウィッグや帽子、補正下着、爪や肌のケア、就労支援の情報などを見て、触れていただく機会となりました。

今後も、がんと共に日々を歩む方々へ、「あるがままの自分」でいられるための支えを、届けられたらと願っています。

約200名の方に
ご参加いただきました!
ありがとうございました!



1 みて、ふわて、相談する

アピアランスケア体験 コーナー



2 当事者・医療者・支援者がつながる力

対話が広げる支援の輪



講演

第1部「あなたのアピアランスケア」
桜井なおみ氏(全国がん患者団体連合会)

第2部「チームで支える外見・心・生活」

- 手術と治療を支えるチーム
- 外見と気持ちを支えるケアチーム
- がん相談支援センター～患者さんとご家族を支える窓口～



ブース展示

働くことと暮らしを支えるひろば

自分らしさを支えるひろば

おいしく食べるひろば

新しいつながりのひろば



3 “わたしらしさ”との再会

あるがままの自分で生きることを支えるケアの紹介



がん患者・家族のサロン「みぶなの会」

日時 ※学習会とサロンは同日開催
偶数月第4水曜日 午後1:30～午後3:30

場所 京都市立病院 北館7階サロン
(一部オンライン同時開催)

申込み 各回、開催1か月前より募集を開始します。
参加希望の方はメールまたは電話でお申込みください。

がん相談支援センター
☎075-311-6354 (直通) 詳しくはこちら▶

問合せ先 (月曜日～金曜日 9:00～16:00)



講師 中岡成文先生(一般社団法人 哲学相談おんころ 代表理事)
「哲学相談おんころ」について知りたい方は、こちらのQRコードでアクセスできます。▶



令和7年度 第2回 令和7年8月27日に「体験を共有する～ピアの力学～」と題して学習会を開催し、9名の方に参加いただきました。

学習会の様子&参加者の声

来る度に何かしら気づきがあって、楽しく参加させていただきました。



本日のサロン自体がみなさんと同じ時間を共有できたと思いました。それぞれの方のお話を聞かせていただきありがとうございました。

参加者の皆さんの話が聞くことができ、気が楽になりました。

令和7年度 第3回 令和7年11月26日に「所属とのつながり～“わたしらしい”を探して～」と題して学習会を開催し、8名の方に参加いただきました。

学習会の様子&参加者の声



居場所について、もう一度ゆっくり考えたいと思いました。言葉について、具体的に考えることがあまりなかったもので、よかったですと思いました。

居場所はひとつじゃない。皆さんそれぞれ明確に近づいたのではないのでしょうか?今回は濃かったです。参加できて良かったです!!

人の話を聴く、そして、自分の意見を言う。対話の大切さと人の交わりの必要性を感じます。